

令和 6 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	6 3	学 校 名	茨城県立牛久高等学校				課程	普通科		学校長名			田崎 泰昭				
教頭名	宇都木 宏一								事務（室）長名			花田 武志					
教職員数	教諭	4 2	養護 教諭	1	常勤 講師	0	非常勤 講師	2	実習教諭、実習講師、 実習助手		1	事務職 員	3	技 術 職 員 等	3	計	5 5
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合 計		合 計 クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科		1 3 3	1 0 9	1 3 0	1 0 9	1 3 5	1 0 0			3 9 8	3 1 8	1 8				
	科																
	科																

2 目指す学校像

「進路を極める牛久」、「人間性を高める牛久」、「国際社会を生きる牛久」を3つの柱とし、「チーム牛久」を掲げ教職員が一体となり、生徒が安全かつ安心して様々な教育活動に参加し、自らの意志で学び活動できる環境をつくる。

また、「学び続ける教師像」として「ともに学び ともに汗を流し ともに成長する」を念頭に、教育活動を計画し実践する。

進学校として生徒一人一人の進路希望の実現を目指し、国際社会に生きる豊かな人間を育成するなど、知育・徳育・体育の全人的教育を行い、地域から信頼され存在感のある学校を目指す。

さらに、教職員と生徒とのコミュニケーションを密にし連携を取り、生徒の自尊意識、自己肯定感を高め、人間関係構築力を磨く。

① I C Tを活用し学力向上と進路指導の充実を図る。 ②人間性を育む指導と部活動の充実を図る。 ③社会の変化に応える国際教育の充実を図る。

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	（長期的目標） 国際感覚を身につけ、社会に貢献できる人財 自ら課題を発見し、探究していくことができる人財 自己の特性を理解するとともに他者を尊重し、多様な人々と協働できる人財
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	（中期的目標） 社会とつながる機会として、「探究活動」、「異校種との学校間交流」を設定する 「先輩の話を聴く会」、「大学模擬講座」などの行事を実施し、キャリア教育を推進する 科目によって習熟度別の授業や課外授業を設定し、一人ひとりのニーズに応える 科目横断的な学習内容を多くの科目で設定し、グローバルなものの見方を養う
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	（短期的目標） 明るく 対話・議論を通して、相手の思いをくみ取ることができる生徒 たくましく ICT を活用し、主体的に学ぶ姿勢を持った生徒 やさしく 多様性を認め合い、世界に目を向けることができる生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	家庭学習の定着をめざし、週末課題や「小テスト」等を実施してきたが、「自らの意志で学ぶ姿勢」に欠けるところが見られた。 また、従来よりアクティブ・ラーニング型授業を取り入れているが、ICT の活用を取り入れた効果的な授業づくりのための研修を進めている。	①教員相互の授業研究やアクティブ・ラーニング型授業と ICT を活用した授業に関する研修を充実させ、生徒の学習意欲を高めるとともに、「わかる授業」や生徒間の学び合いの工夫・改善に努める。 ②効果的な週末課題・小テストを工夫し、継続的に実施する。

別紙様式 1 (高)

		③自律的な生活習慣を身につけさせ、家庭学習時間を確保させる。
進路指導	令和6年度入試では、国公立大学合格者が19名となり、好調な実績を出している。また、都内の有名私立大学にも合格者を出しており、目指す学校像の1つである「進路を極める牛久」を実現するための体制づくりの成果が結果として表れた。生徒の希望を叶えるためのきめ細かい指導を今後も継続して学校全体で取り組んでいく必要がある。専門学校および就職希望者は進路決定率100%であった。また、大学・専門ともに総合型や学校推薦型で受験する生徒が増加しており、生徒と指導する教員ともに早期の準備が必要になってきている。	④進路講演会や研修を実施し、進路に関する最新かつ正確な情報を共有し、生徒への提供をととして早期に進路目標が明確化できるよう努める。 ⑤キャリア教育の充実と生徒一人一人のキャリア意識の高揚を目指し、生徒の進路目標実現を支援する。 ⑥学年や教科との連携を図り、3年間を見通した組織的な進路指導を進める。特に、総合型学や校推薦型を受験する生徒への指導体制を強化する。
生徒指導	生徒指導件数は減少傾向にある。遅刻者も減ってきている。しかしながら、服装の乱れが目立つようになってきていることと自転車の乗車マナーに関しては、まだまだである。 また、生徒自身の自尊意識や自己肯定感がやや低いように思われる。	⑦全職員の共通理解と協力の下に、「USHIKU PRIDE ～破の章～」をスローガンとして規範意識を一層向上させる。 ⑧生徒と教職員とのコミュニケーションの機会を増やし、人間関係構築力を育み、自尊意識や自己肯定感を高めていく。
特別活動	生徒のほぼ全員が、HR活動、生徒会活動、学校行事等に前向きに参加しているが、リーダーシップを発揮して行動をとる生徒が少ない。部活動は盛んで、関東大会・全国大会へ出場した部もある。	⑨ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事を工夫し、一人一人の成長に繋がるものとする。 ⑩運動部、文化部の主体的な活動を積極的に支援する。 ⑪各活動におけるリーダーの育成を図る。
国際教育の推進	本校が主催する語学研修やホームステイの受け入れ等、積極的に実施し、生徒にとって貴重な経験となっている。しかしながら、コロナ禍において実施が難しい状況が続いている。	⑫校内校外における活動やオンライン学習を通して、国際理解教育を進めて、国際教育に係る行事に積極的に参加し、異文化交流を行い、「つながる」ことのできる力を

別紙様式 1 (高)

	海外研修に代わるものとして、体験型英語学習施設において 1 日英語学習を実施している。	育む。
働き方改革	勤務時間の超過が月 45 時間を超える教員が減少しているものの、まだまだ多いのが現状である。	⑬教員の業務量の適切な管理に努め、超過勤務時間を削減する。

5 中期的目標

① アクティブ・ラーニング型授業、ICT を活用した授業の充実を図り、学習意欲の向上と自学自習を定着させる。 ② 希望する進路を実現させるために、進路ガイダンス等を充実させ、進路目標を早期に明確化させる。 ③ 大学入学共通テストに関する研修・研究を積極的に行う。 ④ 基本的な生活習慣や規範意識を身につけさせるとともに、心の教育を充実させ、人間性の向上を図る。 ⑤ ホームルーム活動、生徒会活動、部活動等への自発的な取り組みをさせる。 ⑥ 国際社会の一員としての資質や能力を高める。 ⑦ 教員の業務量の適切な管理に努め、超過勤務時間を抑える。
--

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
学習習慣の定着化	①教員相互の授業研究やアクティブ・ラーニング型授業、ICT を活用した授業に関する研修を充実させ、生徒の学習意欲を高めるとともに、「わかる授業」や生徒間の学び合いの工夫・改善に努める。 ②効果的な週末課題・小テストを工夫し、継続的に実施する。 ③生徒個々のタイムマネジメントを確立させ、家庭学習時間を確保させる。 ④検定試験（英検等）の受検を積極的に推奨し、資格を取得させる。
進路意識の高揚	⑤大学入学共通テストを含む進路に関する必要な情報を効果的に提供し、早期に進路目標を明確化させる。

別紙様式 1 (高)

	⑥進路目標達成のためにキャリア教育を充実させ、効果的に取り組み、生徒一人一人のキャリア意識を高揚させる。 ⑦進路希望実現に向けた学力向上のために、積極的に課外授業に参加させる。
人間性の向上	⑧全職員の共通理解と協力の下に、「USHIKU PRIDE～破の章～」をスローガンとして規範意識を一層向上させる。 ⑨生徒と教職員とのコミュニケーションの機会を増やし人間関係構築力を育み、自尊意識や自己肯定感を高めていく。
特別活動等への自発的取組み	⑩ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の内容を工夫し、生徒一人一人の成長に繋がるものとする。キャリア・パスポートを積極的に活用する。 ⑪運動部、文化部の主体的な活動を積極的に支援する。 ⑫生徒を校内外の研修会に参加させ、各活動のリーダーの育成を図る。
国際教育の推進	⑬国際教育に係る行事を取り入れて、異文化や異なる文化をもつ人々を受容し、「つながる」ことのできる力を育む。 ⑭生徒を本県主催の国際教育研修に積極的に参加させ、グローバル化に対応できる人材を育成する。
働き方改革の推進	⑮学年、教科、校務分掌等における業務の精選を行うとともに、学校行事の精選を進める。 ⑯校務の I C T 化や教材の共有等を進め、業務の効率化を図る。
授業改善	⑰生徒一人一人が主体的・対話的に学びながら、「わかる授業」を実践し、授業満足度（K P I）3.7を目指す。